



ひびき

Letter of the M.Y. elementary school

南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.337
令和6年度 9月号
令和6年8月30日

好きこそものの

校長 鈴木 智彦

記録的な猛暑となったこの夏。アスファルトの照り返しにより気温が40度を超えることも驚かなくなりました。全国高校野球大会も、試合時間の配慮をするなど、様々な試みが行われました。子どもたちが戻ってきた学校でも、引き続き健康管理に配慮してまいりたいと思います。

私にとって、この夏はパリ・オリンピックでのアスリートの姿に元気をもらった夏でした。これまでの積み重ねがあるからこそ、結果に対し真摯に向き合い、時には喜び、時には悔しがり、その姿に胸が熱くなりました。

しかし、「一番印象に残ったのはどの場面か」と問われると、それは選手の姿ではありませんでした。



オリンピックミーなちゃん

「マラソンコースを3回下見してきました」

シドニー・オリンピック女子マラソンの金メダリスト、高橋尚子さんが今回、男子マラソンの現地レポーターをされていましたが、そこでの一言です。

もちろんコースを知っておけば、選手目線での解説ができるので有意義だとは思いますが、すべての解説者やレポーターが出来るかということそうではありません。

では、なぜ高橋尚子さんは、42.195キロを走ったのでしょうか？それも3回も。それはきっと「走るのが好きだから」なのだと思います。

思えば、シドニー・オリンピックでゴールした時も「すごく楽しい42キロでした」と笑顔でゴールされていました。その後の会見でも「これで終わりかと思うと、寂しいような気持ちもする。もっと走りたい」とおっしゃっていました。

やはり「好き」という気持ちが事を成す原動力になるのでしょう。

子どもたちにとっての「好き」に一つでも多く出会えるように、学校では様々な学びを行っていきます。ご理解、ご協力のほど、よろしく願いたします。